

Title	元代・明代における張天師と龍虎山系道士の権力基盤の形成過程
Sub Title	A study of the establishment of power base of Heavenly Masters and Longhushan Daoists in Yuan and Ming period
Author	酒井, 規史(Sakai, Norifumi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究は、元代と明代初期を中心に、張天師を領袖とする龍虎山系の道士たちの勢力が各地方に進出し、その権力基盤を形成していく過程を考察したものである。碑文・地方志・各地の道觀の資料を集めた宮觀志などを利用して、龍虎山系の道士たちが江南各地の道教をどのように管轄したか、それに対して江南の道士たちがいかに対応したかを検討した。</p> <p>調査・研究の結果として、学術講演と国際学会での研究発表を行った。以下、その成果を述べていく。</p> <p>(1) 2018年5月に国立政治大学（台北）において、「宮觀志的道教研究価値 - 以道觀制度與道士活動為中心的討論 -」という題目で学術講演を行った。宮觀志を利用した道教の研究はまだ例が少ないため、これまでの自分の経験をもとに、宮觀志の資料価値や活用法について述べた。</p> <p>(2) 2018年7月に輔仁大学（台北）で開催された「歴史與地方道教研究国際検討会」において、「元明時期的洞霄宮-以道教管理制度與道士之間的交流為中心 -」という題目で研究発表を行った。洞霄宮は宋代以降における、杭州地域の主要な道觀である。元代以降、龍虎山系の道士たちが杭州に進出したとの、洞霄宮出身の道士たちの動向を追いかげ、両者の関係を考察した。その結果、洞霄宮の杭州地域における勢力が制限を受けつつも、元代から明初にかけて一定の勢力を保っていたことを明らかにした。</p> <p>(3) 2018年8月に北京大学（北京）で開催された「"文献・制度與史実：『元典章』與元代社会"国際学術検討会」において、「『茅山志』所収硬訳公文-再談『特賜玉印劍還山省劄』 -」という題目で研究発表を行った。『茅山志』に収録されている公文書の内容を分析し、龍虎山系の道士たちが、江南地域の主要な道教の聖地である茅山を管轄下においていたことを明らかにした。以前にも同文書を論文中で取り上げているが、その後の研究で得た知見をもとに、その内容を再度検討したものである。</p> <p>The purpose of this research is two-fold. First, it will investigate how Heavenly Masters and Longhushan Daoists controlled Daoism of Jiangnan area in Yuan and Ming period. Second, it will study how Daoists of Jiangnan area associated with Longhushan Daoists in the same period. This research was conducted by using materials such as inscriptions, topographies and Gongguanzhi (monograph of Daoism abbey) mainly and was accomplished as follows.</p> <p>I gave a lecture on Gongguanzhi of Yuan and Ming period in Taipei, explained they are quite valuable to study Daoist abbey and activities of Daoists. And I presented a part of this research at international conferences in Taipei and Peking. The former was focused on Daoist Abbey Dongxiaogong in Hangzhou area and explored how Daoists of Dongxiaogong maintained their forces under the control of Longhushan Daoists. The latter was focused on an official document recorded in Maoshanzhi, and explored how Longhushan Daoists controlled Daoist of Maoshan which is principal holy site in Jiangnan area.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180228

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	商学部	職名	専任講師	補助額	300 (A) 千円
	氏名	酒井 規史	氏名（英語）	SAKAI Norifumi		

研究課題（日本語）

元代・明代における張天師と龍虎山系道士の権力基盤の形成過程

研究課題（英訳）

A study of the establishment of power base of Heavenly Masters and Longhushan Daoists in Yuan and Ming period

1. 研究成果実績の概要

本研究は、元代と明代初期を中心に、張天師を領袖とする龍虎山系の道士たちの勢力が各地方に進出し、その権力基盤を形成していく過程を考察したものである。碑文・地方志・各地の道觀の資料を集めた宮觀志などを利用して、龍虎山系の道士たちが江南各地の道教をどのように管轄したか、それに対して江南の道士たちがいかに対応したかを検討した。

調査・研究の結果として、学術講演と国際学会での研究発表を行った。以下、その成果を述べていく。

(1) 2018年5月に国立政治大学(台北)において、「宮觀志的道教研究価値—以道觀制度與道士活動為中心的討論—」という題目で学術講演を行った。宮觀志を利用した道教の研究はまだ例が少ないため、これまでの自分の経験をもとに、宮觀志の資料価値や活用法について述べた。

(2) 2018年7月に輔仁大学(台北)で開催された「歴史與地方道教研究国際検討会」において、「元明時期的洞霄宮—以道教管理制度與道士之間的交流為中心—」という題目で研究発表を行った。洞霄宮は宋代以降における、杭州地域の主要な道觀である。元代以降、龍虎山系の道士たちが杭州に進出したあと、洞霄宮出身の道士たちの動向を追いかながら、両者の関係を考察した。その結果、洞霄宮の杭州地域における勢力が制限を受けつつも、元代から明初にかけて一定の勢力を保っていたことを明らかにした。

(3) 2018年8月に北京大学(北京)で開催された「文献・制度與史実:『元典章』與元代社会」国際学術検討会において、「『茅山志』所収硬訳公文—再談『特賜玉印劍還山省劄』—」という題目で研究発表を行った。『茅山志』に収録されている公文書の内容を分析し、龍虎山系の道士たちが、江南地域の主要な道教の聖地である茅山を管轄下においていたことを明らかにした。以前にも同文書を論文中で取り上げているが、その後の研究で得た知見をもとに、その内容を再度検討したものである。

2. 研究成果実績の概要（英訳）

The purpose of this research is two-fold. First, it will investigate how Heavenly Masters and Longhushan Daoists controlled Daoism of Jiangnan area in Yuan and Ming period. Second, it will study how Daoists of Jiangnan area associated with Longhushan Daoists in the same period. This research was conducted by using materials such as inscriptions, topographies and Gongguanzhi (monograph of Daoism abbey) mainly and was accomplished as follows.

I gave a lecture on Gongguanzhi of Yuan and Ming period in Taipei, explained they are quite valuable to study Daoist abbey and activities of Daoists. And I presented a part of this research at international conferences in Taipei and Peking. The former was focused on Daoist Abbey Dongxiaogong in Hangzhou area and explored how Daoists of Dongxiaogong maintained their forces under the control of Longhushan Daoists. The latter was focused on an official document recorded in Maoshanzhi, and explored how Longhushan Daoists controlled Daoist of Maoshan which is principal holy site in Jiangnan area.

3. 本研究課題に関する発表

発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)
酒井規史	宮觀志的道教研究価値—道觀制度與道士活動為中心的討論—	国立政治大学における講演	2018年5月
酒井規史	元明時期的洞霄宮—以道教管理制度與道士之間的交流為中心—	歴史與地方道教研究国際検討会 (輔仁大学)	2018年7月
酒井規史	『茅山志』所収硬訳公文—再談『特賜玉印劍還山省劄』	”文献・制度與史実:『元典章』與元代社会”国際学術検討会(北京大学)	2018年8月